

# 地球環境とともに

## 基本的な考え方

京王グループは「環境にやさしく」という「京王グループ理念」に基づき、2004年に「京王グループ環境基本方針」を、2010年に「生物多様性行動指針」を定め、環境保全活動の推進のため、環境マネジメントに取り組んでいます。

## カーボンニュートラルを目指して

### 大型電気バスなどの運行



西東京バスの大型EV路線バス（電気バス）

西東京バスでは、2023年3月より大型EV路線バス（電気バス）を3両導入しています。導入したEV路線バスは、走行時にCO<sub>2</sub>などの排気ガスを排出しないほか、バス自体が大型の電源施設となり、災害時などに電気を供給する機能も有しています。

東京電力ホールディングス株式会社と連携し、バス営業所へEV各設備を導入して、地域の防災／BCP拠点として活用することも検討しています。

その他、京王電鉄バスグループでは省エネルギー化への取り組みとして、CO<sub>2</sub>を排出しない燃料電池バスや、ハイブリッドバスを導入しています。

## 太陽光発電事業



宮古市の発電設備

岩手県宮古市および神奈川県相模原市の社有地において、太陽光発電事業に取り組んでいます。

## 循環型社会を目指して

### 京王プラザホテルの取り組み

京王プラザホテルでは、1991年から排水や廃油の再利用、プラスチックや温室効果ガス排出の削減など地球環境保全のための取り組みを実施しています。ヒートアイランド現象に効果的な屋上緑化や、調理場で使用した廃食用油のリサイクル石けんへの再利用のほか、2018年には年間約43万本使用していたプラスチック製ストローを紙製ストローに、さらに2022年にはお客様の声をもとに使用感も重視し、環境にやさしい生分解性バイオプラスチックストローに移行しました。これらの取り組みが評価され、2022年9月にエコマーク「ホテル・旅館」として認定されました。



紙ストロー

# 地球環境とともに

## 車両のリニューアル・再生



京王重機整備では、現役車両のリニューアル工事で京王電鉄などを引退した車両の再生化工事を実施しています。全国の鉄軌道事業者ごとのニーズに合わせて改造し、再生を図ることで、全国各地の「地域の足」として快適に利用いただいています。新造車両同様に再生した転用改造車両を、新造車両よりも安価で提供しており、1984年以降の納車車両数は220両以上にのぼっています。

## 京王水源の森



2021年9月に東京都水道局の「みんなでつくる水源の森」に賛同し「東京水道～企業の森」の協定を締結しました。当社は多摩川との関わりが深いため、本協定にてネーミングライツを設定した水道水源林の一部を「京王水源の森」(約2ha)とし、水道局と連携し植栽活動や保全作業などを通じて、多摩川源流域の森林保全に貢献していきます。

## 自然との共生社会

### 京王クリーンキャンペーン



1991年から沿線地域の環境保全を目的に、毎年高尾山や多摩川の清掃活動を行っています。2023年5月には、多摩川で清掃活動を行い、一般のお客様と京王グループ社員あわせて398名が参加しました。

## 森林再生への取り組み



日本山岳会「高尾の森づくりの会」は裏高尾の小下沢風景林をフィールドに、50年、100年計画で、花粉の少ない森、多様で豊かな森の復元を目指してボランティア活動を続けています。京王電鉄はこの会の趣旨に賛同し、2002年から広葉樹の植樹用苗木約17,000本を提供するとともに、間伐作業などの育樹活動のお手伝いをしている他、森林作業や自然観察などを通じて自然の大切さを学ぶ「高尾の森親子森林体験スクール」を2008年から共催で開催しています。